

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 33号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2002. 12. 21
編集 芳村恵子
〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

「平成14年度第8回中国・四国ブロック
青少年育成アドバイザー研究集会鳥取大会」
を終えて

～あふれる感謝を込めて～

高橋 譲

中国・四国アドバイザー研究集会鳥取大会から早や一ヶ月が経過しようとしています。

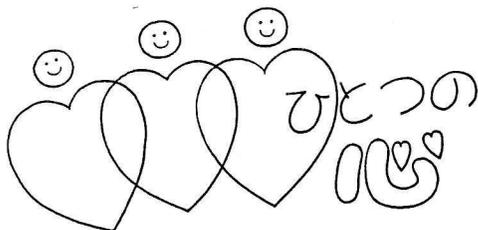
期待と不安の交錯する中で迎えた大会でしたが、天候にも恵まれて、無事成功裏に大会を終了することができました。

これもひとえに、鳥取県アドバイザーのみならず、多くの関係者のご尽力の賜物と深く感謝しております。

20名に満たない鳥取県アドバイザーに加えて、青少年育成鳥取県民会議事務局と米子市教委青少年係の全職員の皆様、さらには鳥取県担当課の応援を得て大会を運営することができました。

また、青少年育成国民会議副会長上村文三様、青少年育成鳥取県民会議会長八村輝夫様をはじめ、多くの来賓、講師、登壇者、等の方々に大会を盛り上げて頂きました。

しかし、何と言っても、鳥取県スタッフの力を合わせた精一杯のおもてなしが光った大会であったと思います。



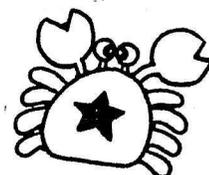
内容については際立った特色は少なかったかも知れませんが、私たち青少年育成アドバイザーの実践として、一生懸命、一致団結した取り組みが出来た事こそ大きな成果であったのではなかろうかと思っています。

中国・四国各県から参加のアドバイザーの皆さんにも概ね好評を得て頂いたようであります。

青少年の健全育成の道には険しい問題が山積していますが、その取り組みに対して多くの温かいご支援やまなざしをひしひしと感じた大会でもありました。登壇者もフロアーも一体感を持って大会を支え、導いて下さいました参加者全員に感謝の気持ちを捧げたいと思います。

これを期に、私たち青少年育成アドバイザーは一層気持ちを引き締めて、青少年の健全育成活動に邁進して行きたいものです。

どうか皆さん、今大会で与えて頂きました「気づき」や「勇気」を明日への実践の糧にして参りましょう。ありがとうございました。



～万歳！

鳥取県青少年育成アドバイザー～

森岡 敏人

荒天が続くと、それだけに晴れた日は心地よく、空がでかく見え、苅田は広々と焚火のおいもかすかに、澄んだ冷たい空気が胸の奥まで広がってきます。

時の色に染まって車を脇に寄せ、畦に腰を下ろし、ボサーとしていました。『忙中閑在』のひと時でしょうか…。

県青少年育成アドバイザー各位には、お元気ですか。師走ともなり、さぞご多忙にお過ごしのことと存じます。また、お互いに健康で、来る歳の夢づくりに想いを熱く走らせて参りましょう。

ところで、過日は中・四国研究大会、共々お骨折り頂きお疲れさまでした。

様々にありましたが、ともあれ青少年育成アドバイザーのアピールと研究大会というひとつの峠を共有した喜びは無形の財産であり、歴史の一頁でもあったと、記憶に留めたいものだと思っています。

裏面へ続く

国民会議より講師をお願いし、ご足労頂いた上村文三先生、基調講演の三川俊樹先生を始めとし、青少年育成県民会議、県・市教育委員会など、多くの方々の応援を頂きました。格調ある大会に盛り上がったことを感謝すると共に、とても喜びました。

好評であったパネルディスカッション。軽妙洒脱なコーディネーター山田晋先生の進行と相俟って、パネラーの中・高生・青年代表の皆さんが、情感や体験が滲む発言を素直に表出してくださり、好感をもって受け止められたようでした。

「ホールサムインかいけ」の夜は、仲間の皆さんとのカニ鍋を囲んでの懇親や情報の交換で楽しみました。

楽しい一夜が明けて余韻を残しながらも、翌日は、芳村・清水・西浦さんの実践発表がありました。それぞれ手がけた実践からのエッセンスを持つての発表に、示唆深く納得させられることばかりでした。三人の方々の発表が初日、ふれ合いの里の全体公開の場にあつたら、もっと多くの人にアピールできたのにと惜しまれました。思いを同じくする仲間として、何か誇らしささえ覚えたのは私だけでしょうか…。ありがとうございました。



ともあれ、小数精鋭の鳥取。

イベントの企画・運営など細部にわたる技と気づかいのある活動、連携の円滑さであったと、事務局は自賛しています。

さり気ない気配りで、ウイットもあざやか、何事においても楽しい空気を醸しては、仲間の意欲を誘う彼がいて…。直感力に優れ、切れ味鋭く核心に迫り、主張もきっちり責任や協力もまたきっちりの彼女がいて…。全く多趣歳々。皆さんの潜在力は半端ではないと脱帽したのでした。

これも高橋会長の粉骨砕身、多岐にわたる積み重ねがあつてのこと、そして執念の結果であつたと思います。

今後は、大道について、県組織の発展に努め、それぞれがそれぞれの場でそれぞれのうたを謳い、確かな歩みを進めて参りましょう。



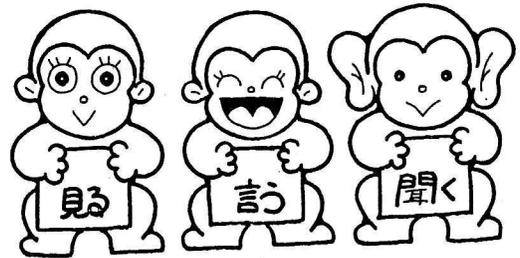
～楽しかったな～

藤井 久美

「楽しかったな」これが、中・四国ブロック青少年育成アドバイザー研究集会を終えた私の感想です。

まだ入会したばかりなのに、いろいろなことをさせて貰い、本当に楽しかったです。

先輩方ともこの会のお陰でいろいろと話も出来ました。最初は、このアドバイザーというもの自体がよく分からず、さて何が私に出来るのか、どういう風に生かせるのか分からない事ばかりでした。



そして、その私が、パネラー？ 司会？ 私の知らないところで決まっていた、「本当に私でいいの？もっといい人がいる筈なのに」と思っている間に、あれよあれよと決まっていました。こうなったら、「まあ一何とかなるさ」と、私のいつものパターン、つまり厚かましくやってしまいました。

当日、講演の時間に、パネル討議に登壇する子ども達や更田さん、そして山田晋先生と打ち合わせをしました。本当は、私も講演を聞いたかったのに…と思いつつ。

でもその考えはすぐなくなりました。4人の中高校生がとても面白い（失礼!!）のです。トツトツとしゃべるのですが、とてもいろいろな事を本気で話してくれるのです。「これはいいぞ。本当に大人の出番なしで、いいな。」と思いました。山田先生も、同じ考えでした。後は本番の通りですが、かえって打ち合わせの時の方が面白かったです。私も、自分の出番を忘れていましたが、何となく話せたし…。

また先輩の西浦氏・芳村氏とは、前準備を含めてとても楽しい時間をもてました。

何が出来るかと考えるより、ここという時に力を合わせて協力できるアドバイザー協議会が、何より素晴らしいと思いました。また次の楽しみを見つけようと思っています。

報道各社にも大変にご支援を頂きました。
地方紙の最大手、日本海新聞の取り扱いを紹介
します。

大会3日前(11月20日)の記事

◆23日から、中四国ブ
ロック青少年育成アドバ
イザー研究鳥取大会
青少年育成アドバイザ
ーの交流を図り、活動を
確認し合う「中国・四国
ブロック青少年育成アド
バイザー研究集会鳥取大
会」(新日本海新聞社な
ど後援)が二十三、二十
四の両日、米子市内で開
かれる。

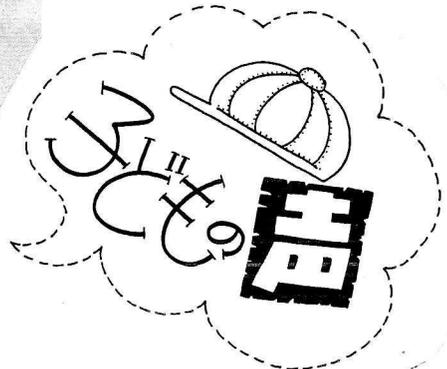
二十三日は、米子市錦
町一丁目のふれあいの里
を会場に、追手門学院大
学助教授の三川俊樹氏が
「心の理解から見える青
少年育成課題」と題して
講演。中学生などによる
パネルディスカッション
もある。

二十四日は、会場を同
市皆生新田三丁目のホー
ルサムインかいけに移
し、県内の青少年育成ア
ドバイザーが、実際の体
験を通じた研究を発表す
る。

入場は両日とも無料
で、二十三日は午後零時
半、二十四日は午前九時
から受け付ける。

大会当日(11月23日)の催し欄

☆後援事業
【23日】湖山池一周ハーフマラ
ソン大会(午前11時スタート)湖
山池一周ハーフマラソンコース)
▽平成14年度第8回中国・四国ブ
ロック青少年育成アドバイザー研
究集会鳥取大会(正午)米子市福
祉保健総合センターふれあいの里
ほか(24日も)▽第2回小・中学
生育成空手道境港大会(午前9時



大会3日後(11月27日)の記事

理想の大人像を討議
中・四国青少年育成アドバイザー大会
青少年の地域活動を支
援する中・四国内の青少
年育成アドバイザーが問
題を語り合い、活性化を
目指す「第八回中国・四



四の両日、米子市錦町の
福祉総合センター「ふれ
あいの里」などで開かれ、
アドバイザーら約百人が
講演やパネル討議などを
通じて見聞を広めた。

今大会のテーマは「聞
こえていますか子どもの
声・伝えていきますかあな
たの心」。二十三日に
「ふれあいの里」で行わ
れたパネル討議では、
「こんな大人になりたい
い・こんな大人がいてほ
しい」をテーマに、県西
部の中学生五人がパネリ
ストとして自分たちの考
えを発表した。

一人で過ごす休日の寂
しさを体験し、将来は子
どものために一生懸命な
「親ばか」になりたいと
いう中学生や、たばこの
ポイ捨てを目にし、自分
勝手で非常識な大人には
なりたくないという思い
が強まったという高校生
の意見などが出された。
参加者らは子どもたちの
素直で辛らつな意見に時
折うなずいたりして、真
剣に耳を傾けていた。

二十四日は、同市皆生
新田のホールサムインか
いけで、アドバイザー同
士の情報交換や実践発表
などが行われた。



実践発表より

清水成眞

中学校の教育相談の現場から

- * 子どもを観察していると楽しい。子どもは周りを明るくさせる力を持つ。
しかし、この力を出せなくなっている。
- * 安心できる場所、ほっとできる場所
人間が生きていくためには無くてはならないもの
私自身が何処の何者だろうと関係なく、私自身を受け入れてくれる。
私のすべてを受け入れてくれる人・場所など。
- * 『どうせ、私なんか』
自分を否定してしまう。自尊感情がなくなる。
見せたくない部分が膨らんでくる。

- * 一度や二度の挫折にめげない子⇒強い子
自分が生きていて楽しい、素晴らしいと思っている
=価値がある人間と感ずること
- * 学校が『辛い場所』になっている
つついて、暴いて、壊していく
 chewing gum が学校に落ちていた。私が拾ってポケットに入れた。それを見ていた子が、「先生に告げて、犯人を探してもらい、注意して貰う」と言った。
許し合って、かばい合って、助け合う
こんな仲間づくりが大切である。
- * 一つのものも2つの働きをする
ライター タバコを吸う
悪い心=放火をする凶器となる
- * 褒めることが大切である。褒めようのない時は、調子に乗せる。



編集後記

今回は先月開催しました中・四国ブロック青少年育成アドバイザー研究集会鳥取大会を特集しました。

本当に楽しく有意義な大会でした。目的を同じくした仲間のパワーはこれからの活動の原動力になると確信しました。

通信が、鳥取県だけでなく、中四国の仲間と手を繋ぐ役目が出来たら、素晴らしいと思います。今後とも宜しくお願いします。

皆様、どうか良いお年をお迎えください。